分類	3－(2)	資料名	⑪　ふれあいひろば

資料について

　このパネルは、地域の公園での様々な幼児同士、幼児と地域の人々との触れ合いの場面を描いています。
　幼児が、日頃から様々な人々と出会ったときに、進んで交流しようとする意欲をはぐくむために作成したものです。

ねらい

・　自分の身の周りの人々とのつながりに気づき、交流しようとする意欲をもつ。

内容

○　地域には様々な人々が暮らしていることに気づく。
○　自分の身近な家族や、幼稚園以外の地域の人々と交流しようとする気持ちをもつ。
○　気持ちのよいあいさつをする習慣を身に付けるようにする。
○　人の役に立てることを喜ぶ気持ちをもつ。

指導の観点

・　幼児や地域の実態に応じて、高齢者、障害のある人、地域の人々など、自分の生活に関係の深い様々な人々に親しみをもってかかわる気持ちが育つようにする。

展開例

活動内容	環境の構成・教師の援助
①　地域には、様々な人々が交流する場があることが分かる。	
教師：たくさんの人が集まっていますね。ここはどこでしょうか。	
【予想される幼児の発言】 ・公園だと思う。 ・ぼくの家の近くにもあるよ。	
教師：みんなの家の近くにも、公園のように人が集まる場所がありますか。 みんなは、公園でどんなことをしているのかな。	
【予想される幼児の発言】 ・友だちとサッカーをしているよ。 ・すべり台で遊んでいる。 ・ブランコにのるよ。 ・お父さんと犬の散歩に行く。 ・なわとびの練習をしにいくよ。	□　まず、自分の生活を振り返ることによって、パネルに描かれている場面を、身近にとらえさせる。 □　公園は、どんな人が来てもよい場所であり、それぞれが、いろいろな目的で集まって来ていることに気づかせる。

	活　動　内　容	環境の構成・教師の援助
展開例	教師：パネルの中の公園にいる人は、どんなことをしているのかな。 何か話をしているね。どんなお話をしているのかな。 【予想される幼児の発言】 ・本を読んでいる人がいる。 ・車椅子を押しているお姉さんが、「気持ちがいい？」って妹に話をしている。 ・お父さんと子どもが遊んでいる。 ・花を摘んで、花輪の作り方を教えているよ。 ・おばあさんと散歩にきている男の子が「大丈夫？」って階段を降りるのを支えているよ。 ・近所の人と会って、「こんにちは。」ってあいさつしているよ。 ・友だちと会って、「こっちで遊ぼう。」って言っているよ。 ② 生活の中で、自分に関わりのある人たちと、どのように交流していくかを考える。	□ パネルを見て、どの意見も肯定的に聞くなど、幼児が自由に話せる雰囲気づくりに配慮する。 □ 幼児が、日常生活の中では関わることが少ないと思われる障害者や高齢者との触れ合いの場面については、意識して取り上げる。
	教師：みんなは、公園で知った人や友だちと出会ったらどうするかな。 【予想される幼児の発言】 ・友だちと会ったら「いっしょに遊ぼう。」と声をかけたい。 ・友だちのお母さんに会ったら、「こんにちは。」とあいさつをするよ。 ・おじいさんやおばあさんが大変そうだなと思ったら、「大丈夫ですか。」と聞いてみる。 ・困っている人がいたら、お手伝いしたいな。	□ 挨拶をしたり、声をかけられたりすると気持ちがよいことに気づかせ、すすんで交流ができるようにする。 □ 手助けが必要な人を見かけたら声をかけるなど、思いやりの気持ちをもって接することの大切さに気づかせる。 ＊ 安全面にも配慮が必要であり、全く知らない人には、声をかけないことも伝えておく。